

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	10
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		4
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		7
1. その人らしい暮らしの支援		5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		23

事業所番号	1490600267
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム若草の丘
訪問調査日	令和7年9月5日
評価確定日	令和7年10月20日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600267	事業の開始年月日	平成27年4月1日	
		指定年月日	平成27年4月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	グループホーム若草の丘			
所在地	(240-0021) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区保土ヶ谷町3-192			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護		登録定員	名
			通い定員	名
			宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護		定員 計	9 名
ユニット数			1 ユニット	
自己評価作成日	令和7年8月26日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々のご理解とご支援を頂きながら、ご入居者、職員とも、保土ヶ谷の地に共に生活しているといった意識を持ち続けています。旧東海道沿いの歴史に触れながら、家庭的な雰囲気のもと、ご入居者の方々が生き活きと生活出来るよう、入居者本位のサービス提供を心掛けています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和7年9月5日	評価機関 評価決定日	令和7年10月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は社会福祉法人秀峰会の運営です。同法人は横浜市内を中心に介護・保育・クリニック・地域ケアプラザ・地区センター・障害者特定相談支援などの多岐に亘る事業を展開しています。介護事業においては、特別養護老人ホーム・グループホーム・小規模多機能型居宅介護・デイサービス・ショートステイ・定期巡回・随時対応サービス・夜間対応型訪問介護・訪問介護・訪問入浴・居宅介護支援まで、さまざまな利用者のニーズに応じたサービスを提供しており、グループホームは横浜市区と川崎市区で合わせて10事業所あります。ここ「グループホーム若草の丘」はJR保土ヶ谷駅から「二俣川駅」行きのバスで「樹源寺」停留所下車して徒歩3分程の旧東海道に面した場所にあり、近くには日蓮宗総本山身延山久遠寺の末寺として開山された長年の歴史をもつ樹源寺があります。
●コロナウィルスが5類に移行して2年が経ち、外部との交流も徐々に戻りつつあり、直近では8月23日に今井町公園で開催された地域の納涼祭に管理者が受付係として参加するとともに、入居者全員をお連れして屋台での買い物や雰囲気を楽しんでいただきました。管理者は、より多くの外部交流を通して社会との関わりを持つことで、生き生きとした生活を送っていただくことを目標とし、自治会行事、保育園児との交流、ボランティアなど、地域に働きかけています。
●管理者は、入居者によって介護度やADLの状態が異なることから、入居者同士の関係性や楽しく、穏やかに過ごしていただけるよう、入居者の介護度やADLに近い状態の方同士でテーブル配置にすることで、入居者同士が会話や一緒にレク等を行えるよう配慮し、その方の状態にあった生活を送っていただけるよう工夫しています。また、全員で同じことをして過ごすのではなく、個々に応じたレクや生活を送っていただくことで、入居者本位のサービス提供に注力しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム若草の丘
ユニット名	

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の「連帯の輪を無限に広げていく」という理念のもと、ご家族、近隣の方々や地域との関わりを大切にした援助を心掛け実践している。コロナ禍以降、地域交流も再開し、地域の納涼祭や年末の餅つき会等にも参加させて頂いている。	法人理念を事業所の理念として踏襲し、毎朝朝礼時に理念と項目の読み合わせを行うことで、理念の浸透と意識統一を図っています。入職時のオリエンテーションでも理念について管理者から説明を行っています。入職時には法人の理念・方針などが記載されている「羅針盤」を配付し、常に携行して勤務にあたっています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前項目に加え、自治会内の保育園との関わりとして、事業所内で制作した飾りを園児が作った飾りと交換する等関係を維持出来ている。自治会での行事等に、ご入居者と共に参加出来ている。	法人理念の1つでもある「連帯の輪を無限に広げていく」に基づき、地域との関わりを大切にしています。開設当初に自治会に加入し、納涼祭や餅つき大会等への参加、近隣保育園児との交流など、地域とは良好な関係性を構築できています。コロナ禍で中止となっていた行事も徐々に再開され、少しずつですがコロナ以前のように自治会行事、ボランティアとの交流も持てるようになってきています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保土ヶ谷区で開催されている新任ケアマネ研修に講師として依頼があり、グループホームの特徴や役割、事業所の説明をさせて頂いている。令和6年度は不参加だったが、令和7年度は再度依頼あり。保土ヶ谷区内の主任ケアマネ様達との関係作りにも寄与している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回ペースで運営推進会議を行っている。地域包括支援センターの方が会議に参加されており、地域包括支援センター、保土ヶ谷区役所への報告も行っている。認知症介護に知見を有する者として会議に新メンバーも加わっている。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	令和6年度末のコロナクラスター発症の際等は、特に区役所とは連携を密にしてケアへの反映を行ってきた。運営推進会議の報告も随時行っている。	クラスター発生時には、保土ヶ谷区福祉保健課に連絡を密に取りながら対処を行うなど連携を図っています。また、保土ヶ谷区主催の新任ケアマネ研修の講師依頼を受けるなど、協力関係が構築されています。外部研修については、必要性の高いと判断した研修への参加を促しています。また、運営推進会議の議事録は開催した当日に直接提出しに行くようにして、顔の見える関係性作りに努めています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人グループホーム事業部で研修を行っている。事業所内研修でもその内容を学び、周知徹底しながら身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠に関しては、当グループホームが歩道の無いバス通りに面しており、安全面の確保のを行っている。	事業所が道路沿いに面した立地の為、玄関は常時施錠とし、家族に説明したうえで入居していただいています。3ヶ月に1回開催している身体拘束廃止委員会では、管理者と当日出勤の職員をメンバーとして、入居者対応やケアの場面で身体拘束(スピーチロックを含む)に該当する対応が行われていないか確認し、身体拘束をしないケアに努めています。また、事業部研修(年1回)、事業所内研修(年2回)でも具体的な行為や言動などについて学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人グループホーム事業部で、合同の研修を行っている。また、事業所内研修でその内容を学び、虐待防止の周知徹底に努めている。運営推進会議で情報共有しアドバイスを求める等し、虐待防止に努めている。虐待防止に関する会議を開催し虐待ゼロで推移している。	3ヶ月に1回開催している虐待防止委員会では、管理者と当日出勤の職員をメンバーとし、入居者の対応で苦慮していることや不適切ケアについて話し合い、議事録に纏めて共有しています。年1回全職員を対象に実施している虐待に関する自己チェックは、自分自身のケアの振り返りとして活用しています。また、事業部研修(年1回)、事業所内研修(年2回)でも具体的な行為や言動などについて学び、虐待のないケアに取り組んでいます。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当法人グループホーム事業部で、研修会を開催し、必要性を理解していると共に内容を全職員に伝えている。ご利用者にも後見人が担当されている方がおり日頃から連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時にはきちんと説明を行ない、行き違いの無い様、難解な事柄は具体例を交えて説明しその都度ご理解頂いている。契約書は双方で同じ物を保管している。法改正や加算変更時にも説明、書面を取り交わしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内にも掲げている。玄関の意見箱は、分かり易い場所に設置。来館時に意見、要望を示せる体制を整えているとともに、ご意向を直接伺う事も行っている。また、ご家族への運営推進会議の声掛け、家族会の周知等、適宜行っている。	入居契約時に、契約書に明記している苦情相談窓口について説明を行っている他、玄関にも相談フローチャートを掲示して、家族の目に留まるようにしています。更に、意見箱も設置され、意見や要望を表出できる体制を整えています。意見箱を活用されたケースは無く、来訪時の近況報告併せて伺うようにしています。また、年度末に家族会を開催しており、参加された家族と個別に話をする機会を設けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や申し送り時、毎月の定例会議で各職員の意見を募り、業務の改善、ご利用者の処遇の向上に繋げている。口頭による報告連絡相談も多く回転良く業務改善等を推進している。	事業所では毎月、正職会議、ユニット会議、ケアカンファレンスの3会議が開催されています。また、毎月各グループホームの管理者が参加する管理者会議も開催されており、管理者会議の内容を正職会議で共有されています。職員からの意見や提案は日々の会話や朝礼、申し送りでも聴取していますが、業務に関する内容はユニット会議、ケアに関することはケアカンファレンスで話すようにしており、1つ1つの議題について時間をかけて話し合うようにしています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の立場や経験に応じた勤務状況、実績を把握した上で各自がやりがいや向上心が持てるよう勤務形態を調整する等してサポートしている。他、個別面談を適宜実施しており、要望にも耳を傾けている。実績、資格等を手当てに反映している。	管理者は年2回実施している職員面談では、職員の健康状態や職場内の人間関係など、多岐に亘る話を聴きながら、働きやすい職場環境整備に努めています。法人では、退職金制度、永年勤続表彰(10年・20年)、ハマふれんど等の福利厚生の実施や、半期ごとに「出航の誓い」(個人目標)を作成しており、各自が向上心を持ちながら働ける取組も行われています。出航の誓いは全職員が見れるよう事務所に掲示されています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	秀峰会グループホームは10事業所あり。月1回の頻度で、業務に付随した研修に各ホームのユニット毎に1名程度参加している。グループホーム連絡会に参加し、外部ホームの情報も得て反映できる環境を作っている。また、法人で資格取得支援制度を設けている。	毎月実施している事業部研修では、各事業所から職員1,2名が参加し、同法人内のグループホーム管理者がテーマごとに講師を担当しています。事業所では、事業部研修に参加した職員によるフィードバック研修、年間研修に基づく事業所内研修の2本立てで知識やスキルアップの向上を図り、質の向上につなげています。また、法人では資格取得支援制度を設けており、外部研修が受講しやすい環境が整っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣に位置している事業所とは自治会のイベントなどにおいて共に参加させて頂いている。保土ヶ谷区内の法人事業所会議が毎月あり参加し情報共有や事例検討などを行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用に至るまで多くの不安を持たれる事は往々にしてあられるため、ご家族の皆様が納得して頂けるよう、見学やお話しをする機会を随時持ち、不安や求めている事を伺っている。ご希望があれば何度でも見学を受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用に至るまで多くの不安を持たれる事は往々にしてられるため、ご家族の皆様が納得して頂けるよう、見学やお話しをする機会を随時持ち、不安や求めている事を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者のニーズを伺う為にも、ご家族には入居時のアセスメント作成にご協力頂き把握に努めている。突発的な医療の必要性も考慮し、介護保険外サービスの利用も含めて、入居生活の総合的ご支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に同じ住居で生活するという視点として、可能な家事を担って頂いている。人生の先輩として尊敬の念を持ちながら接し、日々の暮らしを充実した物に出来る様、支えあう関係を築ける様、努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントや、自治会の催し等、行事の際は適宜アナウンスし、ご参加可能か伺う事もある。受診の付き添い・外出・居室内の衣類の衣替え・面会など可能な限りご協力頂き、一緒に支援させて頂くメンバーとして位置付けさせて頂いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた個々の生活習慣を尊重し、馴染みの場所や家族以外の知人との関係もお繋ぎする様にしている。行事へのお誘いや、面会が可能な事を知人にお伝え頂く様、ご家族に働き掛けている。	現在は面会制限を設けず、自由に面会していただくようにしています。近年は元々保土ヶ谷に住んでいた方の入居も多くなり、家族や親類関係の面会も増え、多い方で月に7回来られている方もおり、来られた際は居室でゆっくり過ごしていただいています。事業所では3月末に家族会を開催しており、家族の参加率を上げる為の企画を検討しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の日々の生活状況、性格などを考慮した上で相互に交流が図れるよう、テーブル席を調整するなどし、日々コーディネートしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族からの相談があれば応じ、情報提供も求められればお答えしている。退去してもその後のご報告を頂けたり、ホーム側から伺うケースもあり。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや意向を、出来る限り生活の中に取り入れる事の出来る様、コミュニケーションを図り、コーディネートに努めている。入居時のアセスメントも有効に活用している。	入居に伴うアセスメントで、家族に過去の生活歴、既往歴、趣味嗜好品、暮らし方の希望など、本人に関する情報を記入してもらっています。アセスメントの情報を基に日々の関わりの中で、本人の言葉や表情、仕草などから得られた情報を記録に残すとともに、ケアカンファレンスなどで情報を共有しながら思いや意向の把握に努めています。可能か否かを判断したうえで可能なことは介護計画に反映させています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至るまでの生活歴、サービス利用状況の把握の為、アセスメントを行っている。それらの情報を日常のケアに役立てている。残っている記憶を日々想起して頂き、認知症進行予防に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の状態把握に努める為、職員がゆったりと関われる時間を持っている。変化を見落とさないよう、アセスメントやモニタリングを行っている。随時申し送り等で職員間で情報共有もしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人始め、ご家族関係者から聞き取った内容や職員からのアセスメントを基に考え、具体的な介護計画ができる様努めている。定期（4か月に1度）で介護計画を見直している。途中変更あった場合は都度介護計画を変更している。	アセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し1ヶ月～1ヶ月半を目安に身体状況の情報収集に努め、翌月のケアカンファレンスで必要に応じて介護計画の変更を行っています。ケアカンファレンス前には、モニタリング表に気づきや介護計画の実施状況を記入してもらい、それを基にアセスメントシートを作成して、ケアカンファレンスで課題やニーズの抽出を行っています。介護計画の見直しは概ね4ヶ月を基本としていますが、状態の変化があれば都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の活動内容、気付きや様子など介護記録ソフトに記録し、それらを落とさないよう、申し送り等で情報共有している。又、それを踏まえ介護計画にも繋げている。記録ソフトを取り入れ、記録にかかる時間を短縮しご利用者と関わる時間が増えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人は勿論の事、ご家族のニーズに対し出来る限り対応して行く様努めている。（買い物・外食、レクレーション時など）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や地域の方々との継続的な繋がりを持てるようコーディネートしている。地域のお祭りや消防訓練など、近所の方を交えた交流を心掛け実施している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を踏まえ、主治医と連帯が取れる様にしている。多くの方々が、契約訪問診療医にお繋ぎしているが、希望がある場合には、以前からの掛かり付け医である医療機関と連携している。診察時の変化の報告をご家族に行っている。急な体調不良の際は、臨時訪問診療に来ていただいている。	入居時に事業所の協力医療機関に切り替えることのメリットとデメリットを説明したうえで、家族の判断に委ねています。現在は全員が協力医療機関による月2回の訪問診療を受診しています。歯科についても全員が受診しており、月1回の診療と週1回クリーニングを受けています。協力医療機関の看護師とは24時間のオンコール体制を取っており、夜間や急変時には看護師を通して指示を仰いでいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護担当者または訪問診療担当看護師に、その都度個々のご利用者の状況を伝え、アドバイスを頂いている。訪問看護と訪問診療間でも情報共有され包括的に介入して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合、早期に退院が可能か否か、ご家族と共に病院を訪問し、必要な情報を収集した上で病院関係者（担当医・看護師・ソーシャルワーカー等）と退院に向けたケアの内容を協議するなどしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合や終末期のあり方を確認している。その後、実際に兆候が見られた場合、訪問診療医、施設から行える提案を選択頂いている。介護の継続にあたっては、本人を取り巻く関係者全員がその内容を共有出来る様、コーディネートしている。	事業所では終末期ケアまで対応する方針であり、入居契約時には「終末期に関する指針」について説明したうえで同意書を取り交わしています。主治医の判断の下、実際に看取りが想定された段階で主治医・家族・管理者による話し合いの場を設け、今後の方針を共有しながらチームとして終末期ケアに臨んでいます。また、事業部研修で「看取り」について学んでおり、参加職員による伝達研修を行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況、状態に応じた迅速な対応が可能な様、定期的なシュミレーションを行うと共に、全職員に内容を周知徹底している。定期的に心肺蘇生、AED使用、喉詰まり対応等を研修実施し咄嗟の対応に備えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の防災訓練を行っている。可能であれば消防署にも参加頂き、指導を仰いでいる。又、地域住民参加型の訓練も毎年実施している。非常食、飲料水等の備蓄も準備している。災害における業務継続計画（BCP）を作成し取り組んでいる。	事業所では、昼夜の火災や地震を想定した防災避難訓練を年2回、BCP訓練及び研修は年3回実施しています。可能であれば消防署職員に立ち合いを依頼し、訓練後に講評をいただき次回の訓練に反映させるようにして、災害発生時に迅速に対応できるよう努めています。備蓄品として、水、食糧、衛生用品、発電式ラジオ、ヘルメット等を準備している他、AEDも購入しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格、プライバシーについて、尊厳を保つ行動が出来ているか振り返る機会を研修等で確保し、日々のケアの際に役立てている。また、適宜直接指導も行っている。	入職時に個人情報保護に関する誓約書を取り交わすとともに、個人情報保護や秘密保持に関する研修を実施しています。全職員が携行している羅針盤の中にある行動指針の中に「あたたかい心もこもったご挨拶で対応します」や「正しい言葉遣いをします」が定められており、職員は入居者の尊厳を損なうことのない対応を徹底しています。3ヶ月に1回開催している身体拘束廃止・虐待防止委員会でも折に触れて話したり、気になることがあれば話し合うようにしています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の難しい方でも、状態に応じて、表現出来る手法をいくつか試み、意向の把握に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、業務優先とした視点は持たず、その場の個々の方に合った臨機応変な対応を心がけ、傾聴しながら、自己実現が図れる様支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪のカット時等、個々の意向を尊重した依頼を心掛けている。嗜好、意向を持たれる方には家族からも何らかの協力を得る等し、実現できるよう対処している。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に関する好みを適宜伺い、イベントメニュー等に反映している。また、後片付けを協力頂く等、個々の残存能力に応じた働き掛けを心掛けている。希望される外食や、イベント食も取り入れてきた。	食材業者にレシピ付きで食材を発注し、職員（環境整備担当）が調理しています。入居者の好みや食べたい物は日々の会話から適宜聴いており、行事などのイベントメニューとして取り入れています。ベトナム籍職員によるベトナムフェアが行事として取り入れられており、ベトナムの食事や文化に触れていただく企画も行われています。また、入居者の介護度やADLに近い状態の方同士のテーブル配置にすることで、食事の際の入居者同士のトラブルを無くす工夫もされています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養価を考慮したメニューをもとに食事は作られている。個々のご利用者の状態に合わせた形状に調理を行い、摂取量を把握、記録している。食事介助は個々に必要な部分の介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による指導のもと、個々の状態に合った口腔ケアが出来る様、声掛け、見守りを行い、必要な方には職員が磨き残しが無い様、介助を行っている。口腔ケアは毎食後行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の申し送りの内容や記録により、失敗の要因が何処に有るか検討を行っている。快適な排泄が可能となるよう、統一した介助方法を提供している。基本トイレでの排泄を行っている。	入居者全員の排泄状況や状態を把握する為、排泄チェック表を活用しています。自立している方はわかる範囲で答えていただくようにし、職員の介入が必要な方は職員が確認しています。管理者は安易にオムツを使用するのではなく、可能な限りトイレでの排泄を維持できるよう、カンファレンスで支援方法を検討しながらトイレでの排泄を心がけた対応を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適宜、牛乳等の乳製品を提供し、体操や散歩等、運動も取り入れ、便通の効果に繋げている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前や午後、場合によっては夕方に入浴を行っている。一番風呂がお好きな方、介助者に希望がある方等、個々の意向を尊重、極力希望に近づけながら、気持ち良く入浴が出来る様支援している。	週2回を基本とし、午前・午後に分けて入浴支援を行っています。入浴拒否のある方には、職員を代えたり、日にちを変更するなど柔軟に対応し、無理強いくことなく入浴していただけるように支援しています。入浴前には、バイタルチェックと本人の希望や意向を確認して気持ちよく入っていただけるようにしています。季節のゆず湯や菖蒲湯も行い、季節のお風呂を楽しんでいただくようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や、お一人お一人の生活習慣や日中の活動状況を踏まえ、睡眠時間の確保や休息が取れる様、お休み頂くタイミングをお声掛けする等して支援している。気軽に昼寝ができる様、リビング脇にベッドも用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時の主治医からの話や個々の処方箋の内容を誰が見ても分かる様な形でファイリングし、その内容について職員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、残存能力を見極めた上で、役割に繋がられる場面をコーディネートしている。張り合いや喜びを感じて頂けるような家事活動のお願い、レク支援、季節の行事実施に努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りご本人の意向やご家族の意向に添い、散歩、買い物や外食等に出掛けられる様心掛けています。内容によってはご家族に協力を頂くなどして実現出来る様にしています。	天気や気候を考慮しつつ、本人からの申し出があった際には希望に沿えるようにお連れしています。事業所の近くには公園（もとまち広場）やコンビニもあり、職員と散歩や買い物に行かれる方もいますが、家族の来訪に出かけている方もいます。今年の春には相撲の川崎巡業を見に行ったり、初詣で杉山神社にもお連れしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じ、買い物時のお支払いをお願いしたり、ご家族同意のもと少額のお金を自己管理して頂いている。外出時など、自ら選び購入する喜びなど、お金を使う楽しみを味わって頂ける様配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方と年賀状や葉書のやり取りを行える様、希望を伺う等している。電話を使いたい方は、ご家族了承のもと、携帯電話を持ち込んで頂く等し、臨機応変な対応を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂けるよう、空調や照明、TV等の音の具合を調整したり、季節に応じた花や写真を展示すると、各空間の環境面に配慮している。日々の掃除の他に、週に1日、重点掃除箇所を抽出し、美化に努めている。また、居室には馴染みの品を持ち込んで頂く様ご家族にお伝えしている。	共用空間は入居者にとって不穏や混乱を招くことのないよう常に整理整頓を心がけ、動線を確保しながら快適に過ごしていただける共用空間作りに努めています。壁面の装飾はレクの作品や季節にちなんだ物を取り入れることで四季を感じていただけるようにしています。また、入居者の介護度やADLが近い状態の方同士のテーブル配置にすることで、入居者同士が会話や一緒にレク等を行えるよう配慮し、その方の状態にあった生活を送っていただけるよう工夫しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、ソファや椅子を共同空間に複数配置している。談話が盛り上がった際は、そのグループが気持ち良く過ごせる様、談話をフォローしたり、グループがバラバラにならない様配慮している。レク時、一人で居たい方等は、無理に参加頂いていない。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品に囲まれる事で、得られる安心感や居心地に繋がられるよう、ご本人やご家族にご説明しお持ち頂くなどしている。	介護用ベッド、カーテン、エアコン、吊戸棚は備え付けとして完備されています。入居時に自宅で使っていた家具や調度品を持ち込んでいただくことを伝え、本人が安心感や居心地よく過ごせる空間作りをお願いしています。建物の構造上、居室は2階にあることから、居室に行かれる際は職員も同行してお連れしています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を把握し、ご自分で出来る事はできる様、安全面にも気を配り、自立に向けた生活に近付ける環境整備も行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 若草の丘

作成日 令和7年9月5日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	職員の入れ替わりもあり、ご入居者への声掛けや接し方について、不十分であったり、友達言葉になっていると感じる事がある。	法人理念にもある様に、「正しい言葉遣いをします。敬語を正しく使います。分かりやすい言葉を使います。」	毎月2回、朝礼時の唱和の機会を持ち続け、定期面談で個別の振り返りを行い、あるべき姿・振る舞いに近づける。	令和7年度一杯

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。